

# 活動成果報告書

令和2年度（第24回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

「ふれあい体験」を継続し次世代の親を育てていく

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

西和賀町 健康福祉課 保健グループ

代表者：廣田 里美

勤務先：西和賀町役場

所 属：健康福祉課

所在地：〒029-5692

岩手県和賀郡西和賀町沢内字太田2-81-1

TEL：0197-85-3411

FAX：0197-85-2119



## ◇活動方針

・西和賀町は高齢化率が岩手県トップの約50%であり、健康寿命の延伸を目指した健康づくり・介護予防に占める事業割合は大きくなっている。一方、平成21年度32人だった出生数は、令和元年度13人と半減し、母子保健事業も減少している。そんな中、中学生を対象に行う乳幼児との「ふれあい体験」は、約20年前から継続している事業である。当時中学生だった生徒が、「ふれあい体験」で保護者として子育ての思いを伝えている様子を見ると、改めてこの事業が次世代の親を育成する貴重な機会になっていることを実感する。事業はPDCAサイクルに則って行うものだが、この「ふれあい体験」は長いスパンと広い視野で事業評価されるものとする。授業時間の確保が難しくなってきたと聞きながらも、児童虐待や自殺の予防という観点も含め、今後も次世代の親を育てるといった担当者、関係者の熱意で継続している事業である。

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のために各種行事が中止になる中、感染予防対策を行った上で実施した。

## ◇事業の目標

中学校との事業打合せで、下記の5つを目標にふれあい体験を実施することとしている。

- (1) 乳児、幼児のかわいさを知る。
- (2) 思いやりの心を育む。
- (3) 親となる責任を知る。
- (4) 命の尊さを知る。
- (5) 自分も相手の心も大切にする。

# 活動成果報告書

## ◇活動内容とその成果

今年度は、事業評価を行うため、事前学習とふれあい体験学習の後に、中学生からレポートを提出してもらった。

### ① 事前学習

中学校の担当教諭と実施内容の打ち合わせを行い、町内2校の中学3年生を対象に、子どもの発達や特徴、人形を使った赤ちゃんの抱っこの仕方について保健師が50分間の授業を実施。授業の最後に、600g程で生まれたお子さんの成長記録とお母さんの子育てに対する気持ちを紹介。

○中学生の感想（自由記載）※学校の都合により1校（22人）のみ実施

- ・乳児成長カレンダーで乳児の成長過程を理解することができた（13人）
- ・乳児を抱っこする時の注意点などがわかって良かった（11人）
- ・抱っこしてみたら、思っていたより3kgがとても重く感じた（5人）
- ・改めて親に大切に育てられていることを実感し、育ててくれた親に感謝したいと思った（4人）

<早産児の成長記録と母親へ対する記述>

- ・自分の子がどんな子でも受け入れる、という覚悟が大切だということが分かった。
- ・命はとても大切だし、自分の事も大切にすることが大事だと思った。
- ・赤ちゃんを産んだからには最後まで責任をもつことが親の役目なのだと分かった。



(令和元年度事前学習の様子)

### ② ふれあい体験

(1) 乳児期：乳児健診に参加し、グループに分かれ健診の様子を見学。乳児の保護者に質問をしたり実際に赤ちゃんを抱っこさせてもらいながら、大切に育てられている乳児の様子を学ぶ。また小児科医による講話を設けて、自分は大切な存在として生まれてきたことを知る。

育児が初めての保護者にとっても、中学生からの率直な質問に戸惑ったり、当時の自分と重ね合わせたりしながら、我が子の健やかな成長を願う機会ともなる。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止。

# 活動成果報告書

(2) 幼児期：保育所（園）に出向き、園児とふれあいながら幼児期の子どもの特徴を学ぶ。

○中学生の感想（自由記載）※2校（A校：22人、B校14人）合計36人に実施

<ふれあい体験前>

- ・子どもへの接し方がわからず難しい、不安、怖がられないか心配（14人）
- ・緊張して恥ずかしい（5人）

<幼児とふれあう時に心がけたこと>

- ・子どもとふれあう時は、いつもより笑顔を増やした（6人）
- ・子どもに寄り添って、よく耳を傾けた（9人）
- ・子どもと同じ目線で、一人一人に気を配った（8人）

<ふれあい体験後>

- ・子どもたちに喜んでもらえて嬉しかった（7人）
- ・子どもたちとたくさんふれあえて楽しかった、貴重な体験ができた（33人）



(令和2年7月実施の様子)



(令和2年9月実施の様子)

## ③ 事後学習

中学校では、ふれあい体験後のレポート（感想）を家庭科の授業でまとめ、保護者や地域の人へ文化祭で学びの報告をした。

## ◇考察

今回、事業後のレポートを実施することで、ふれあい体験事業の目標にふれた記述が多く、事業実施目標が達成していることがわかった。思春期における中学生を対象に、幼児とのふれあい体験学習を通し、誕生や成長、生命の尊重、母性・父性の育成を図る機会として、この事業は、重要な事業の一つであることを改めて再認識することができた。

## ◇今後の計画

現在、年間出生数は10数人と年々減ってきているが、要保護児童数は減ることはなく、民生児童委員との連携は今後ますます重要になってくる。今後は、課題を抱えた児童・生徒との関わりだけでなく、地域の宝として育てられている子どもたちが、次世代を担う者として地域でサポートしてもらうために、民生児童委員にもふれあい体験事業に関わるように働きかけたいと考えている。